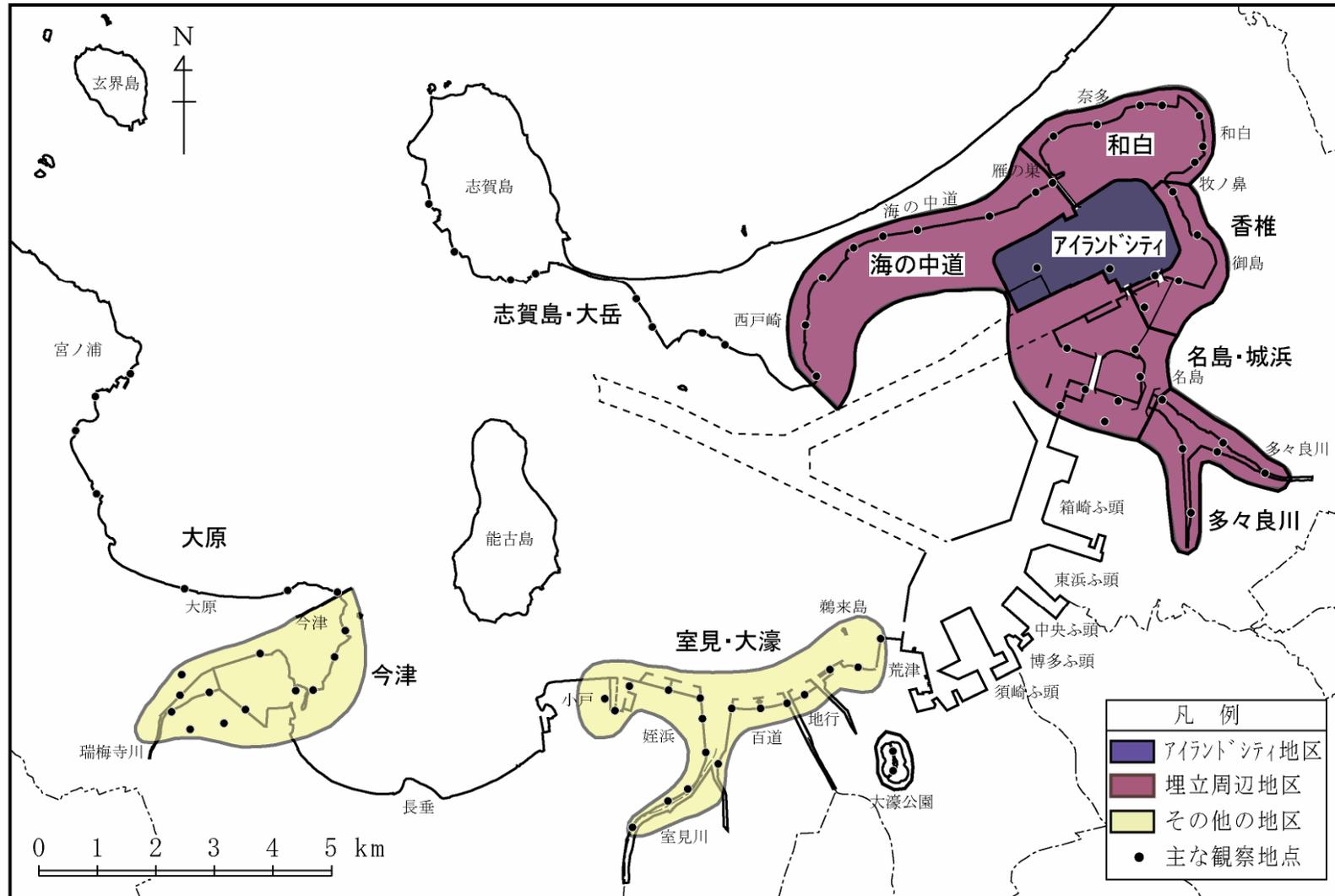


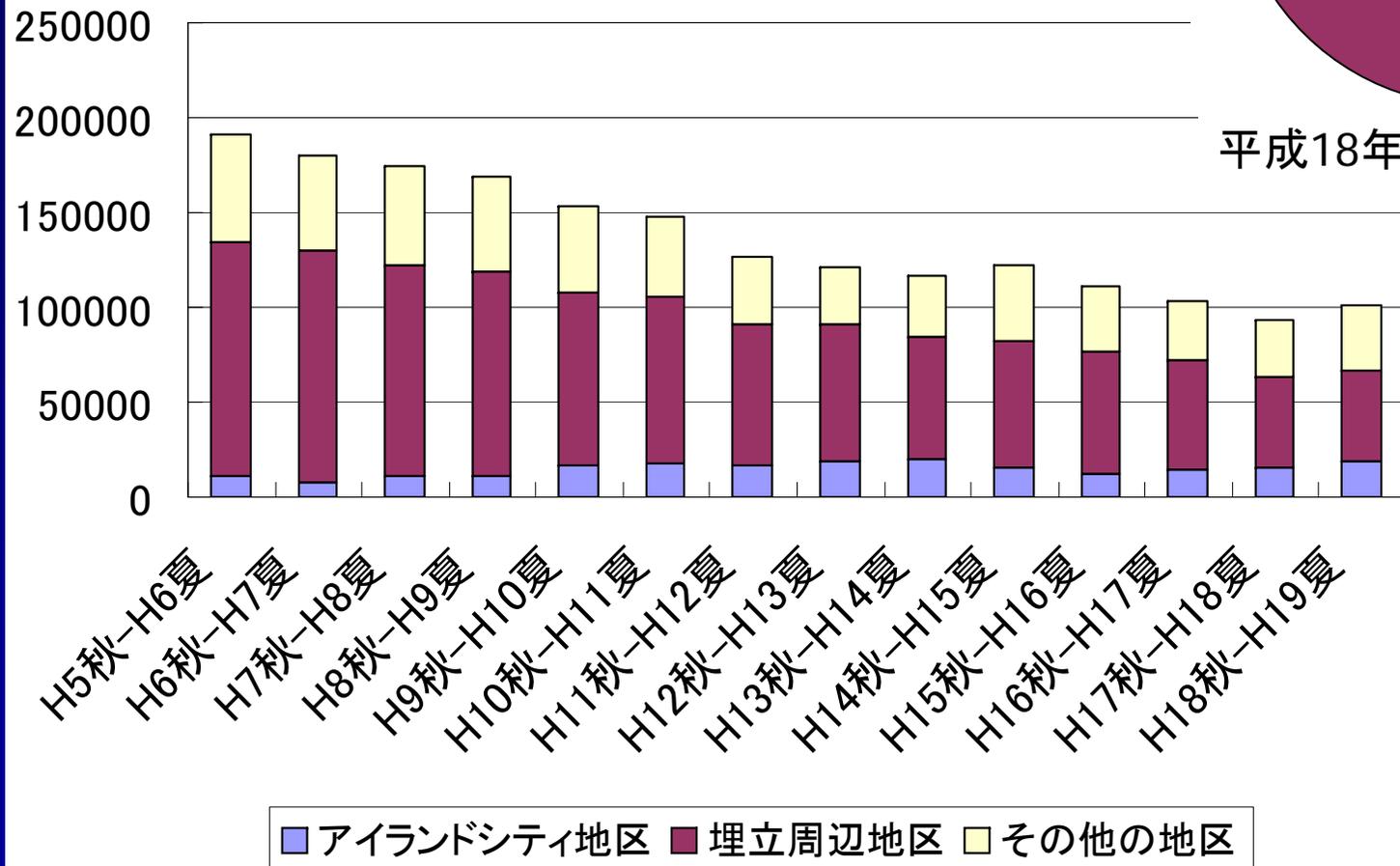
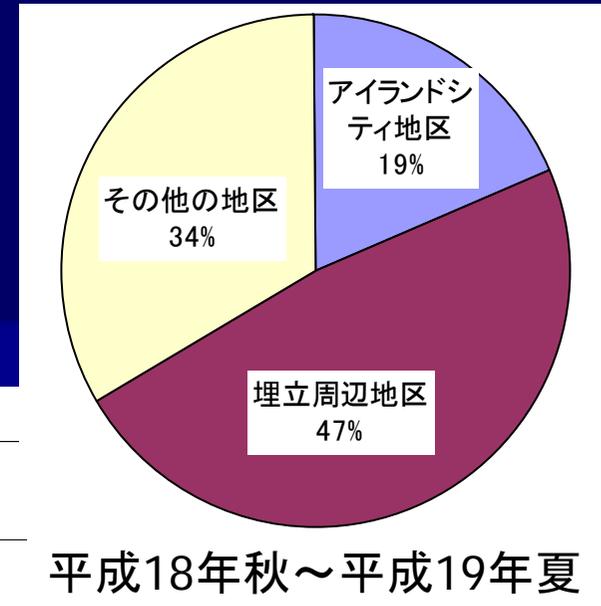
1 鳥類の保全対策

(1) 鳥類の飛来状況

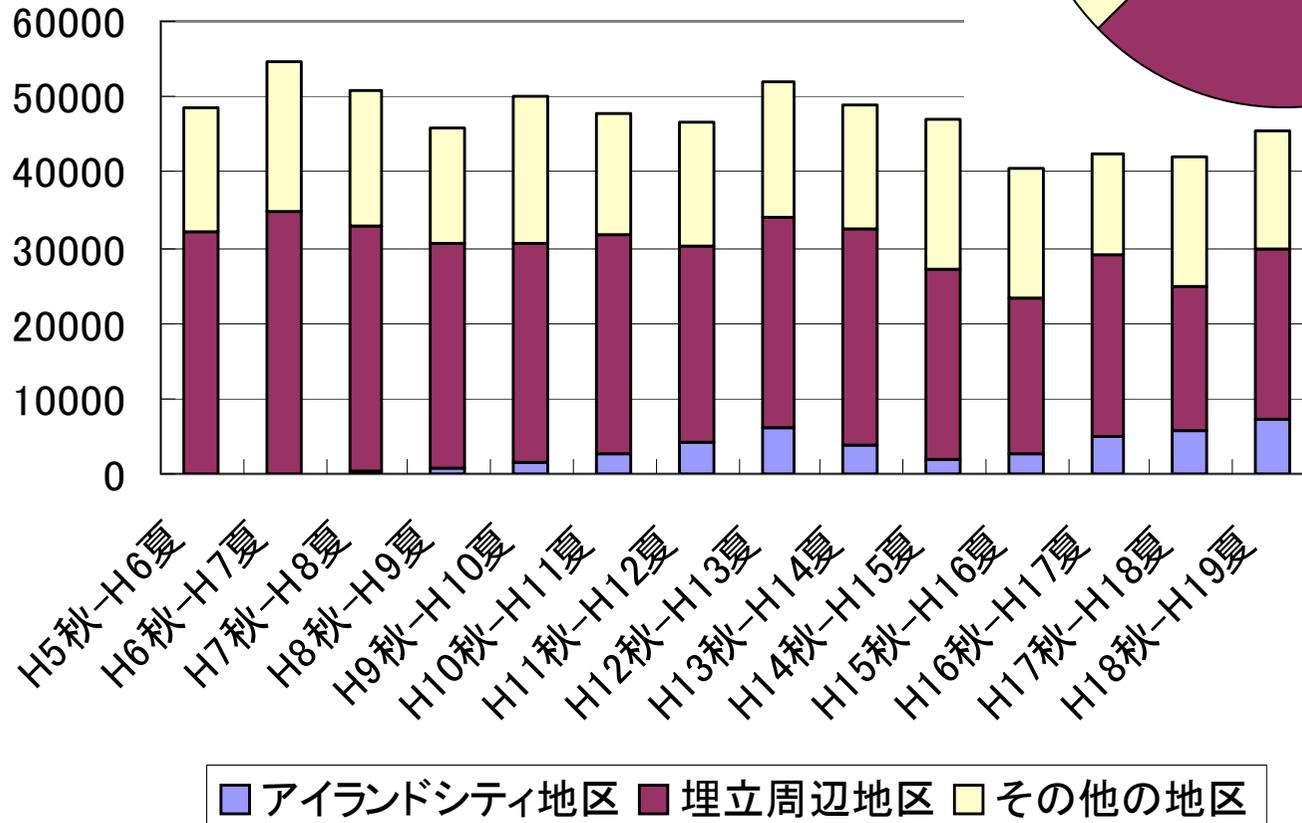
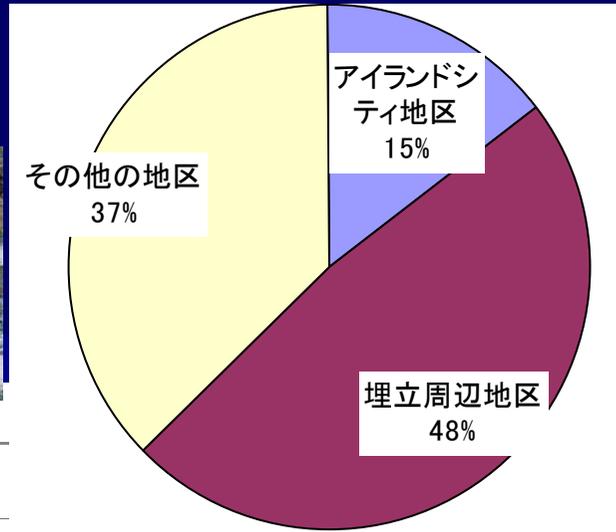
鳥類調査範囲



博多湾の鳥類飛来状況 (鳥類全体)



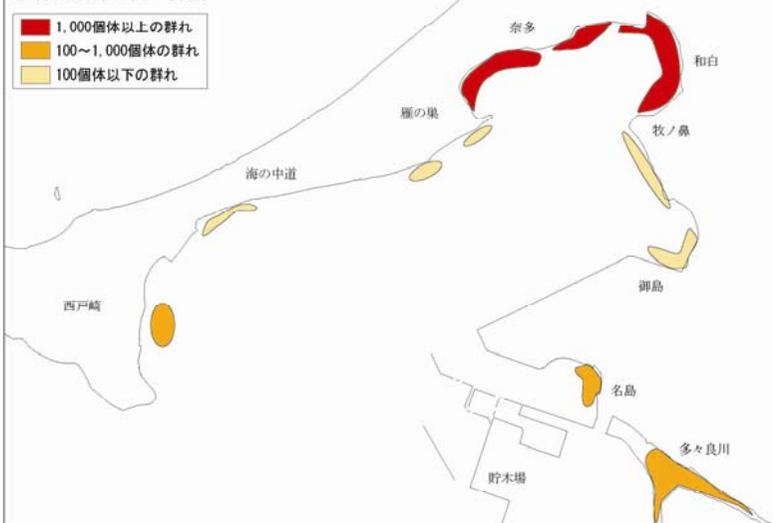
博多湾の鳥類飛来状況 (陸ガモ類)



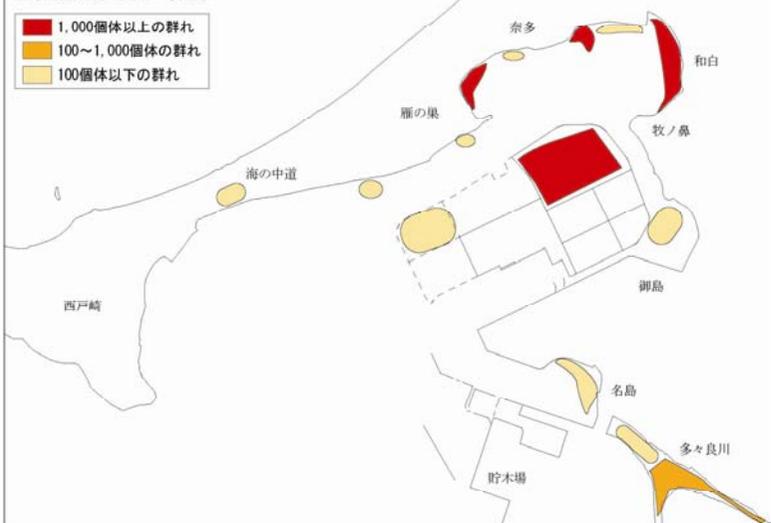
陸ガモ類のアイランドシティ内の利用割合は低い

陸ガモ類分布状況

平成5～6年の陸ガモ類
個体数別分布図 採餌



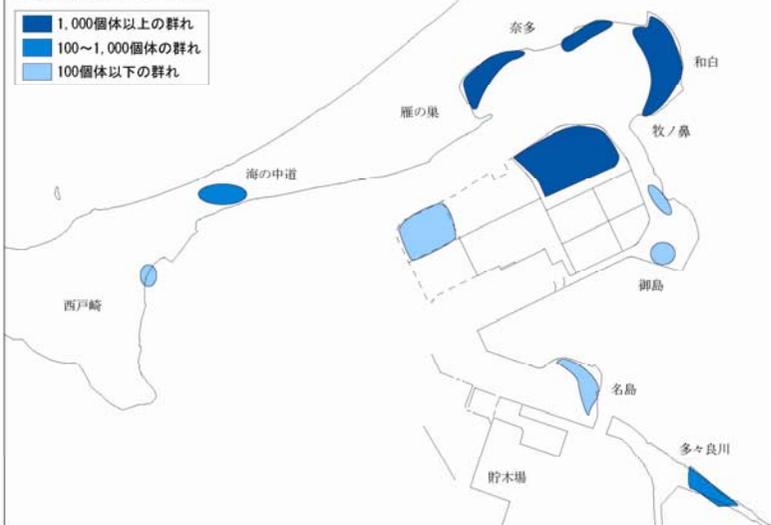
平成16～18年の陸ガモ類
個体数別分布図 採餌



平成5～6年の陸ガモ類
個体数別分布図 休息

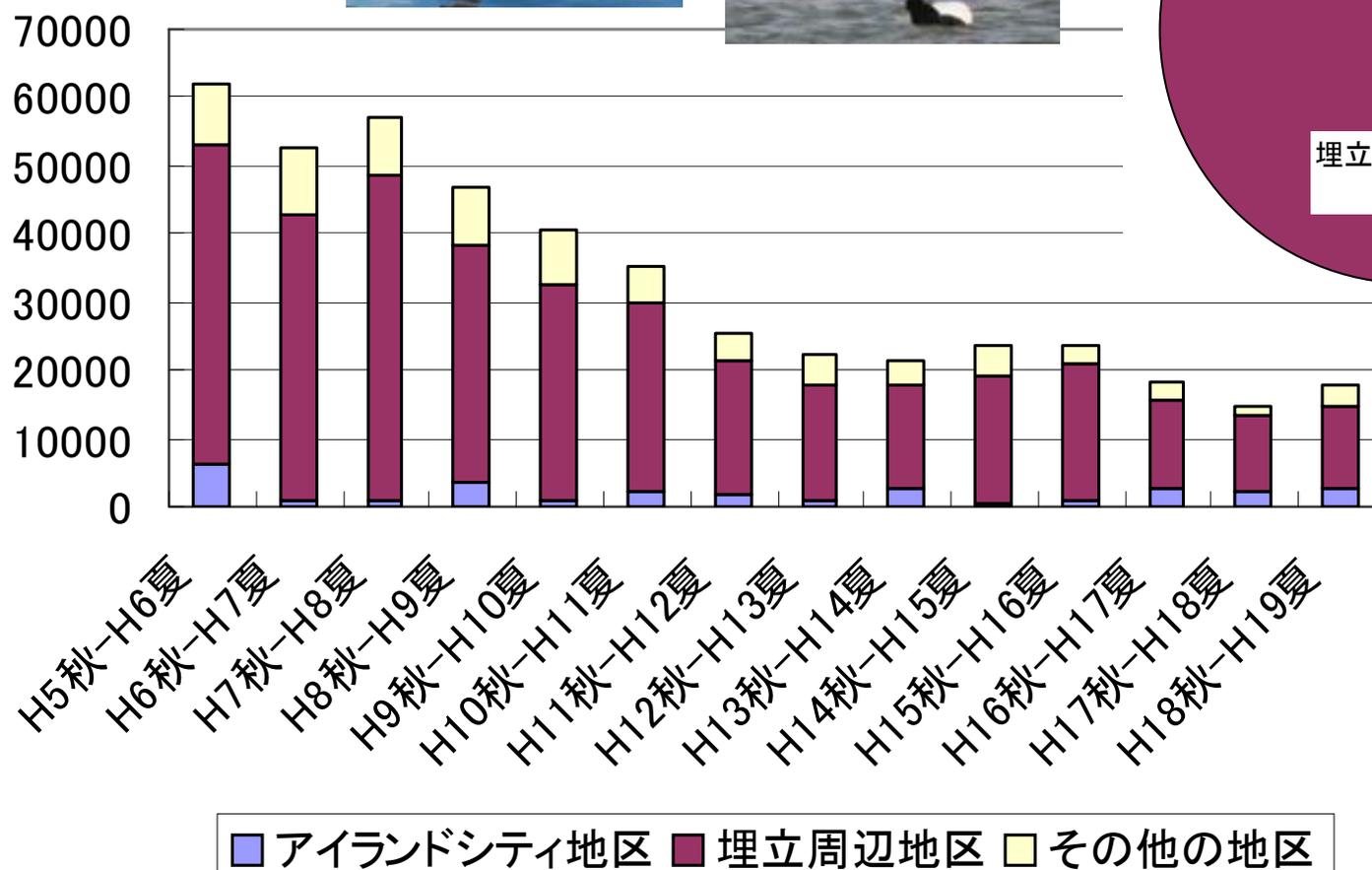
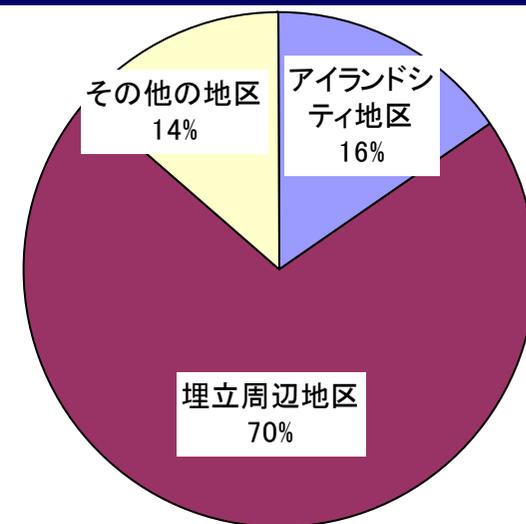


平成16～18年の陸ガモ類
個体数別分布図 休息



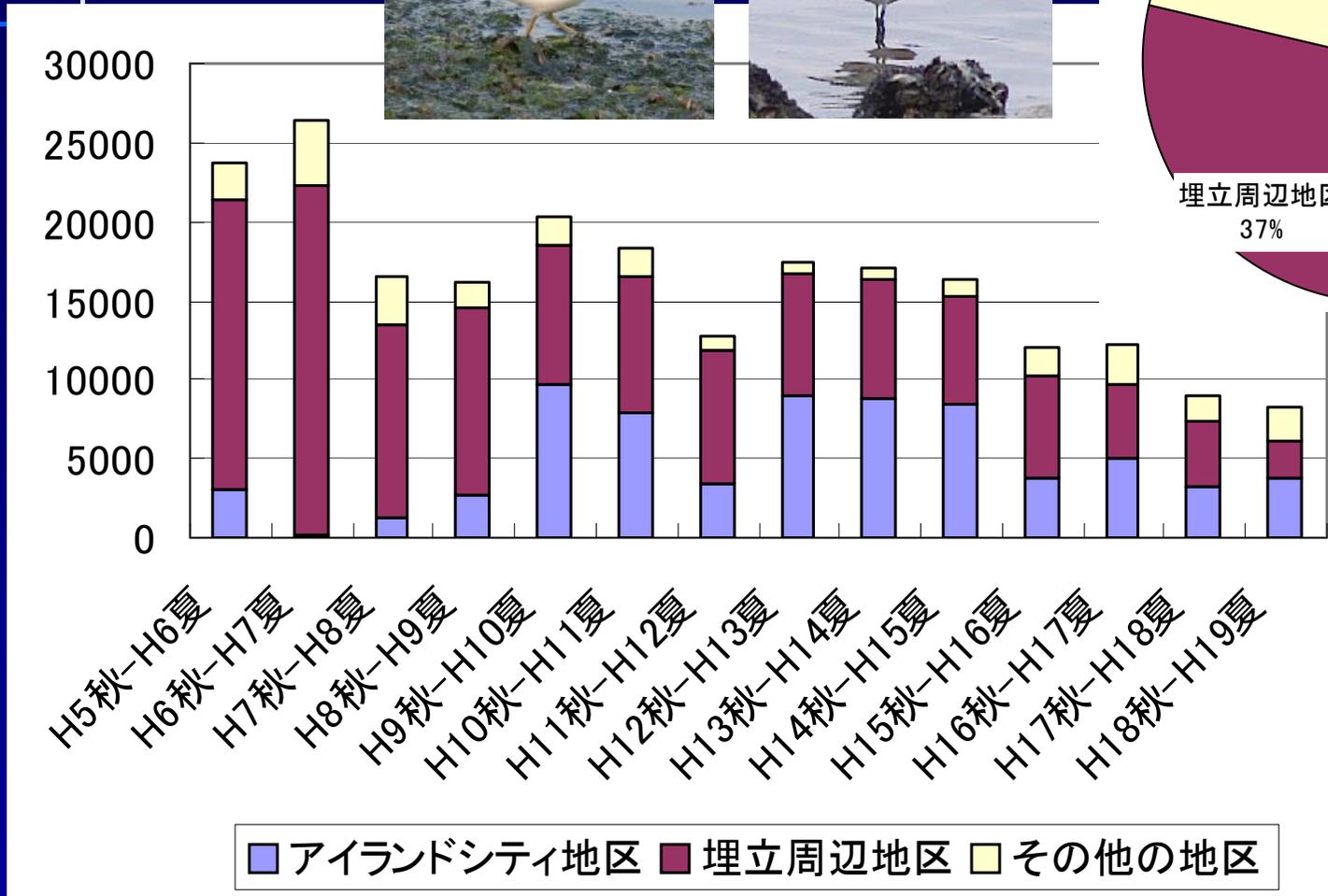
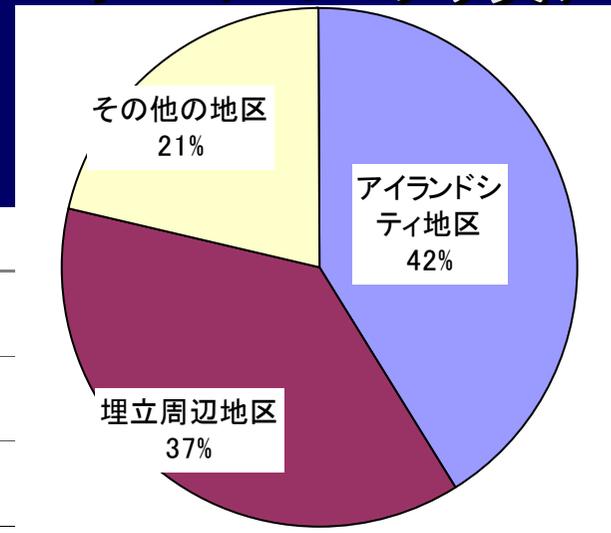
採餌場、休息場とも周辺に広く分布しており、疑似湿地消失による影響は小さいと考えられる

博多湾の鳥類飛来状況（海ガモ類）



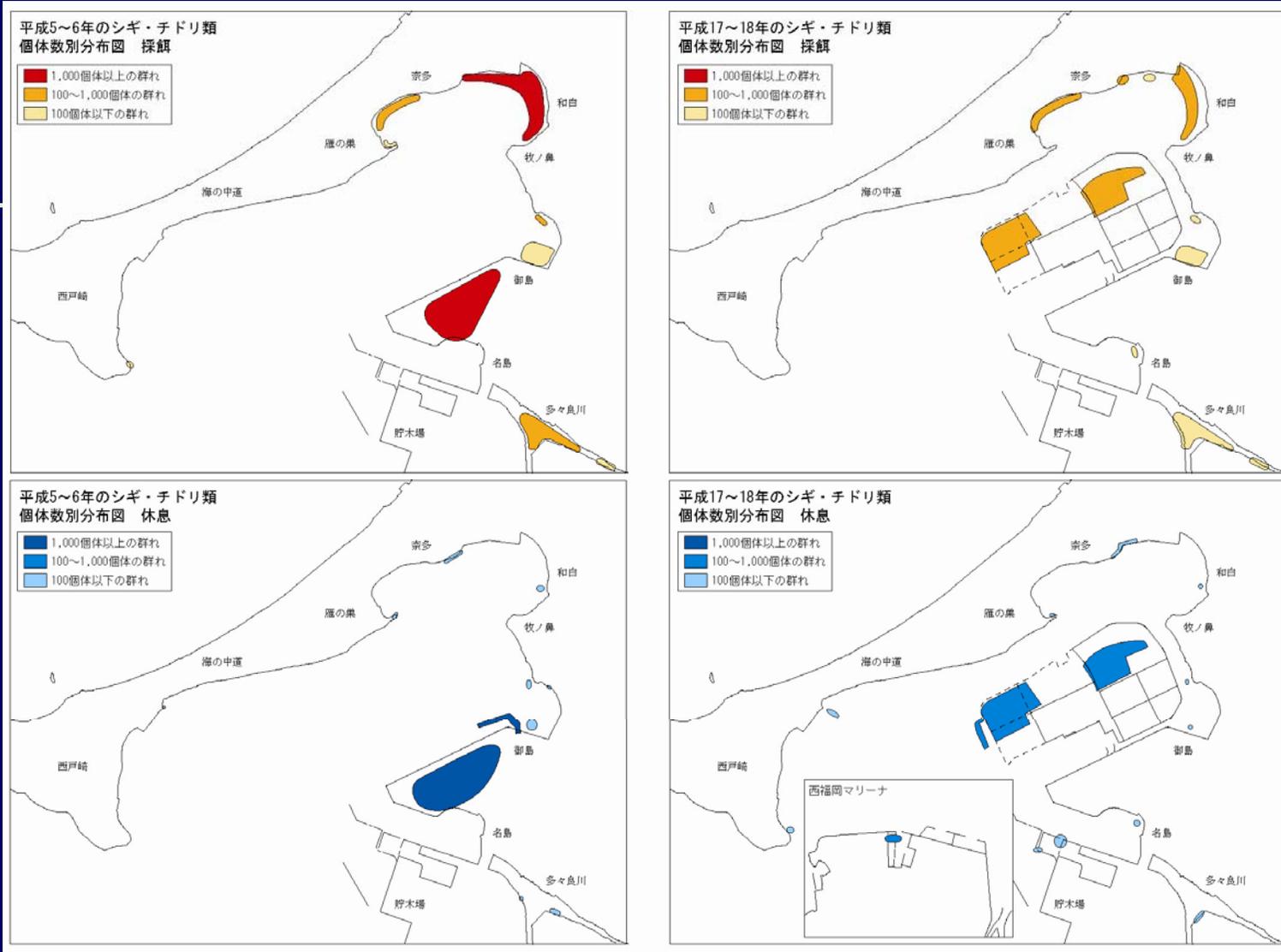
海ガモ類のアイランドシティ内の利用割合は低い

博多湾の鳥類飛来状況(シギ・チドリ類)



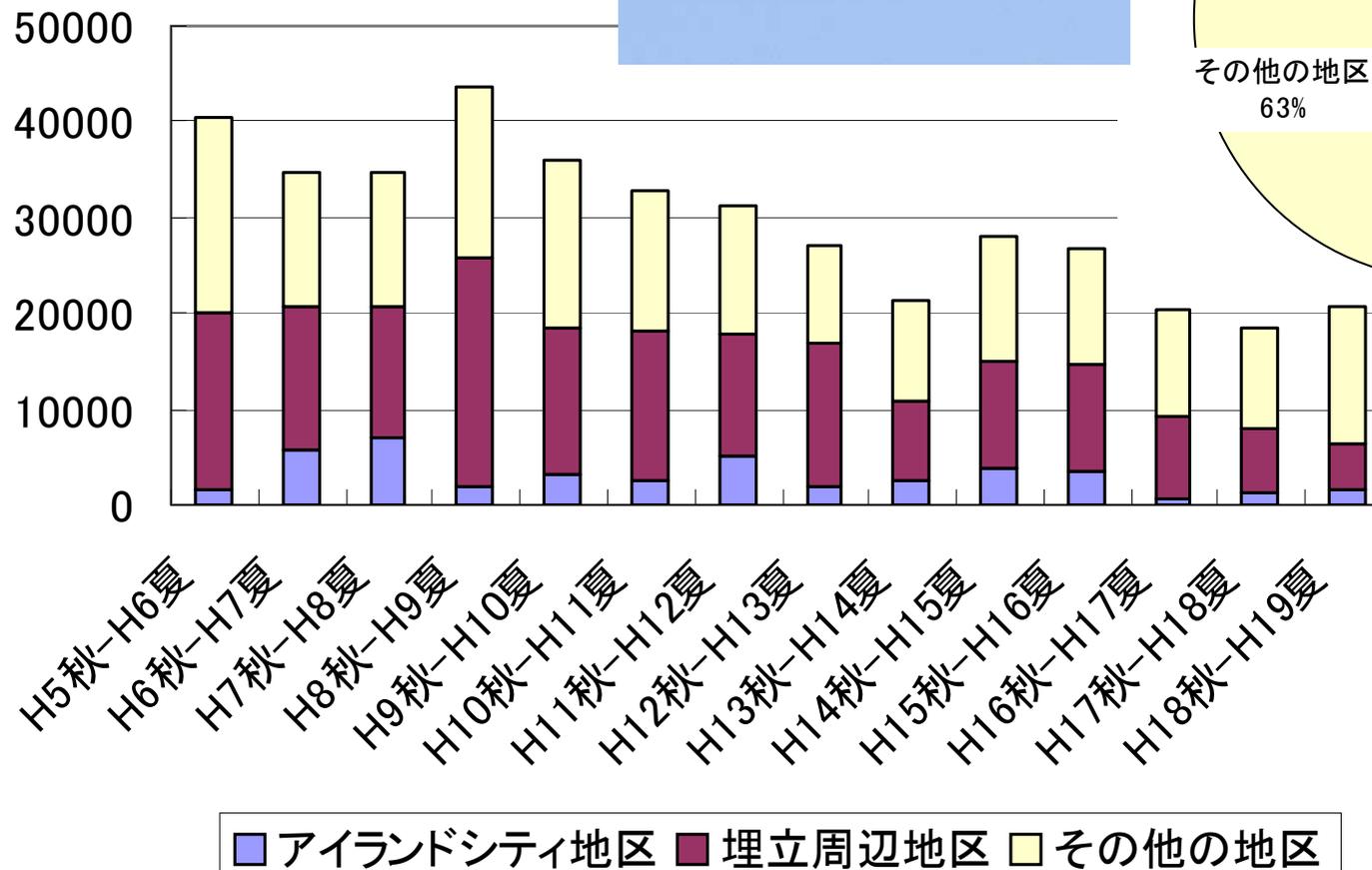
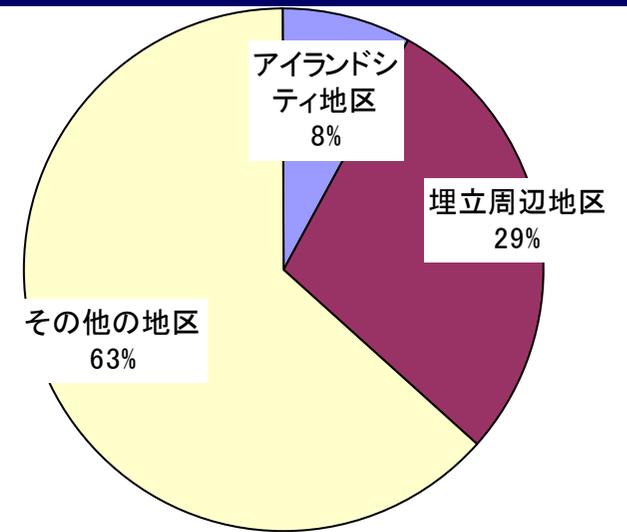
シギ・チドリ類はアイランドシティ内の利用割合が高い

シギ・チドリ類分布状況



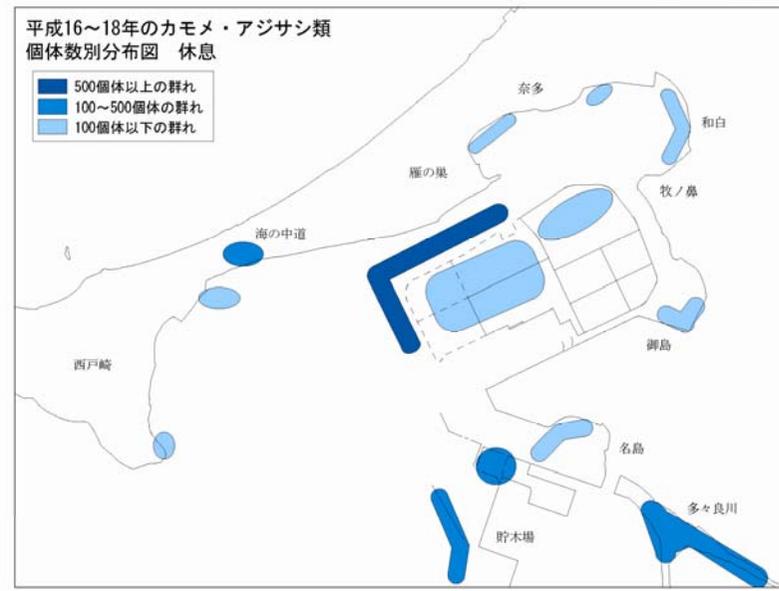
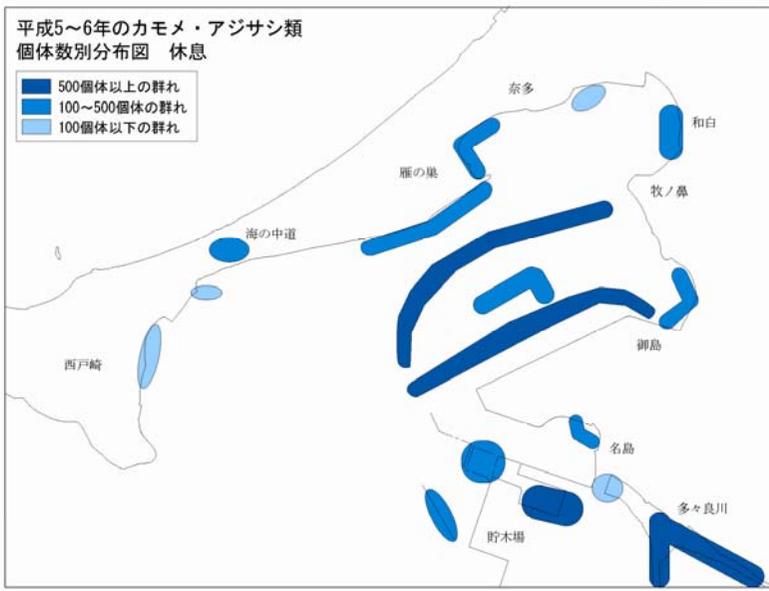
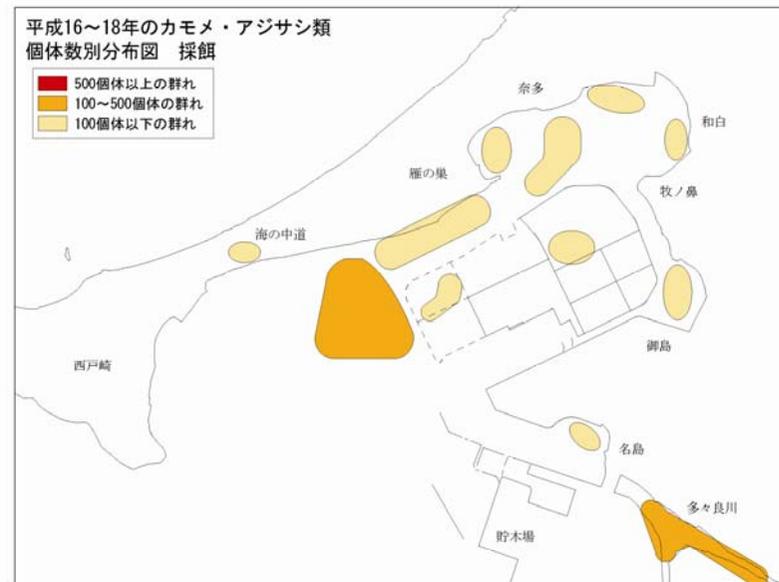
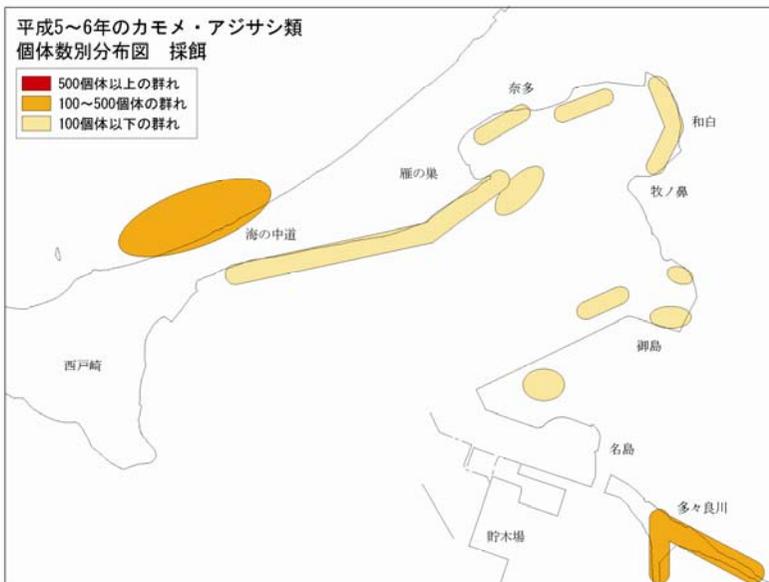
シギ・チドリ類の採餌場には主に和自干潟などが利用されている
休息場はアイランドシティ以外にはほとんどない

博多湾の鳥類飛来状況(カモメ・アジサシ類)



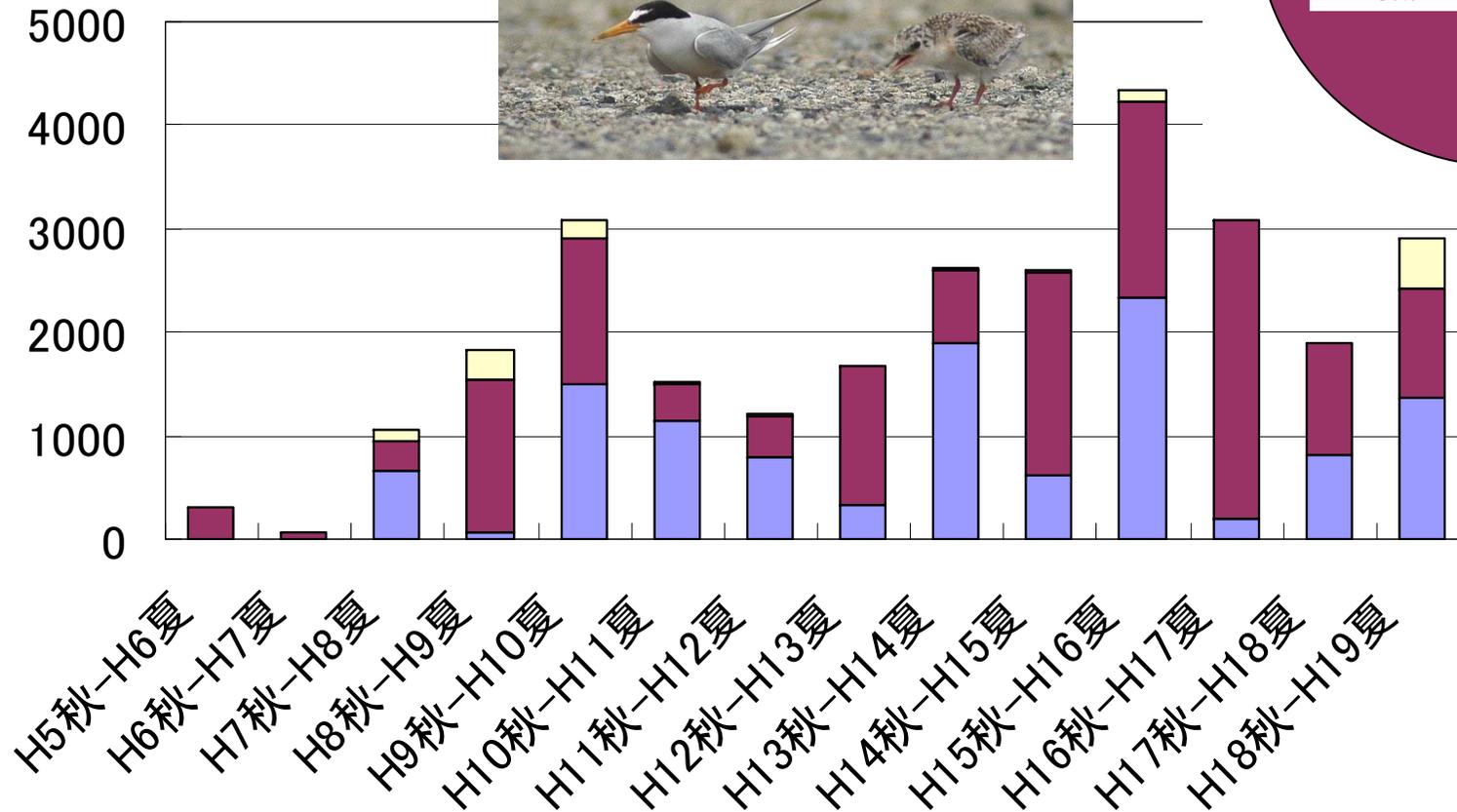
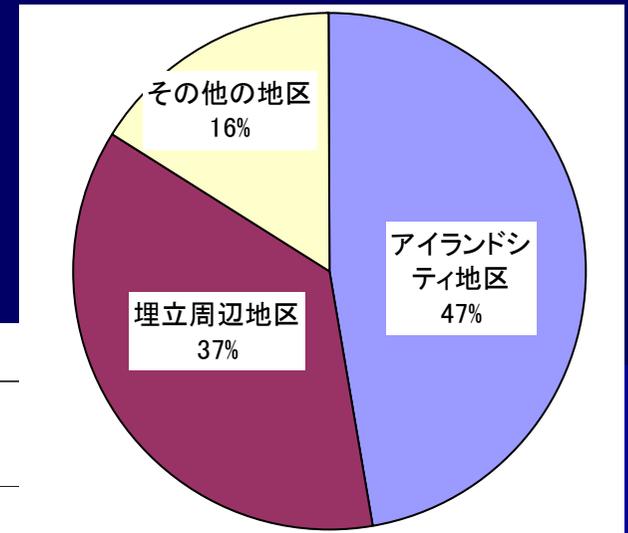
カモメ・アジサシ類のアイランドシティ内の利用割合は低い

カモメ・アジサシ類の分布状況



採餌場、休息場とも周辺に広く分布しており、疑似湿地消失による影響は小さいと考えられる

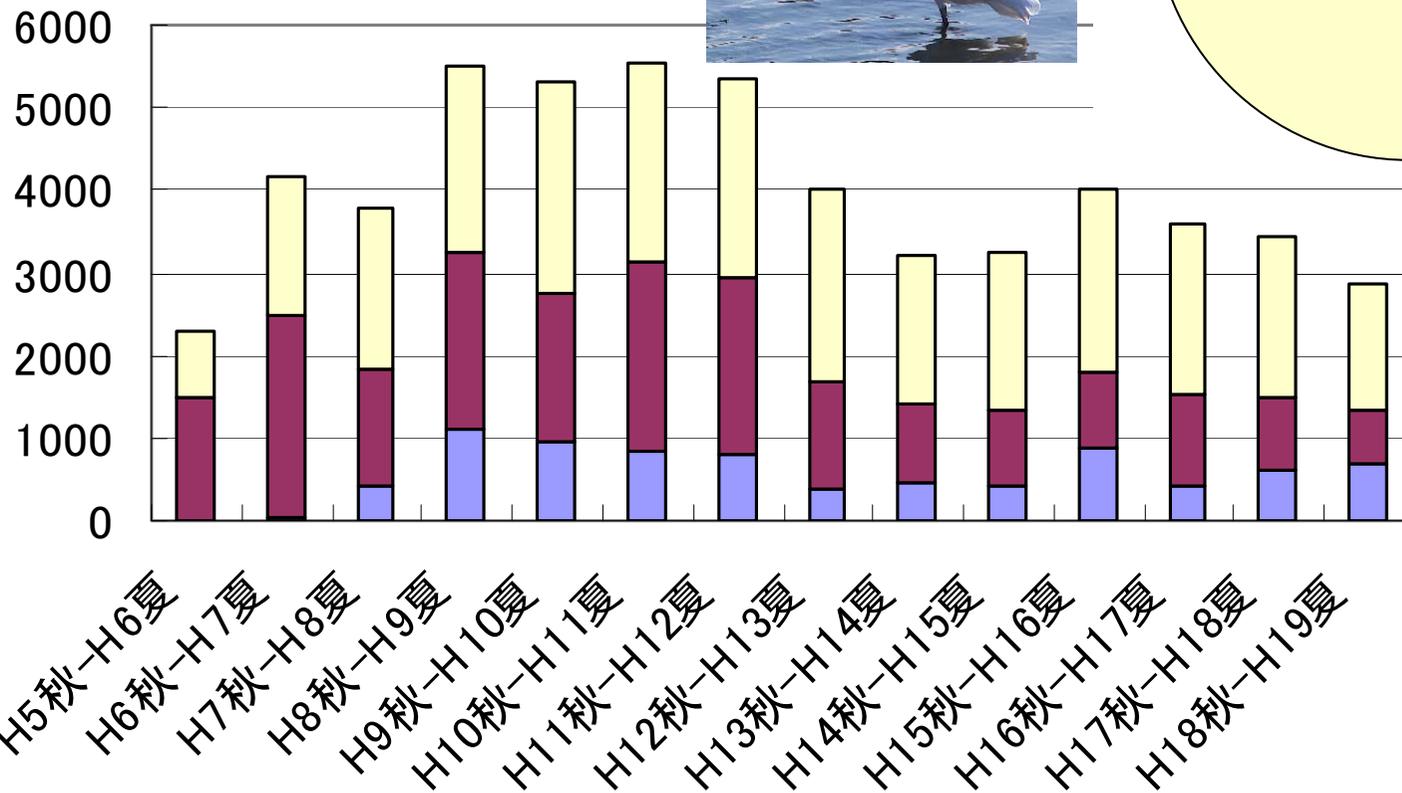
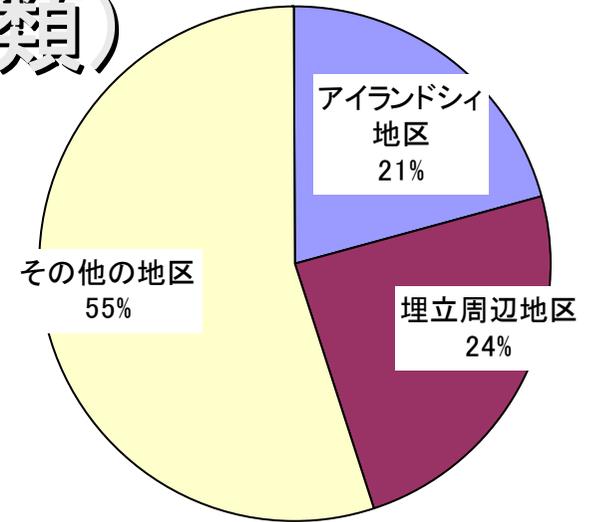
博多湾の鳥類飛来状況 (コアジサシ)



■ アイランドシティ地区
 ■ 埋立周辺地区
 ■ その他の地区

コアジサシのアイランドシティ内の利用割合は高い

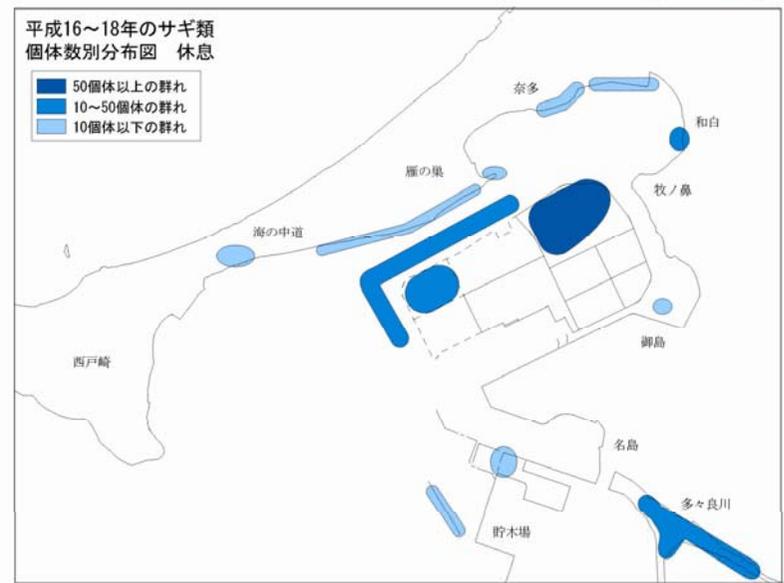
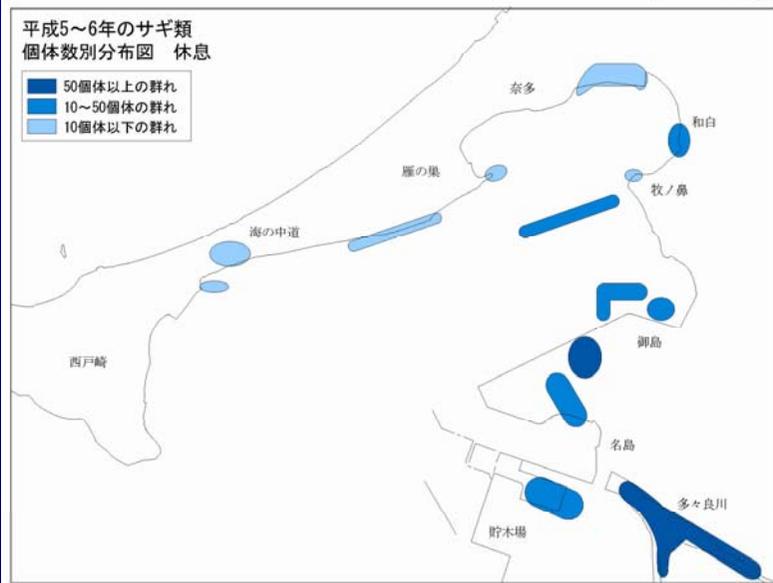
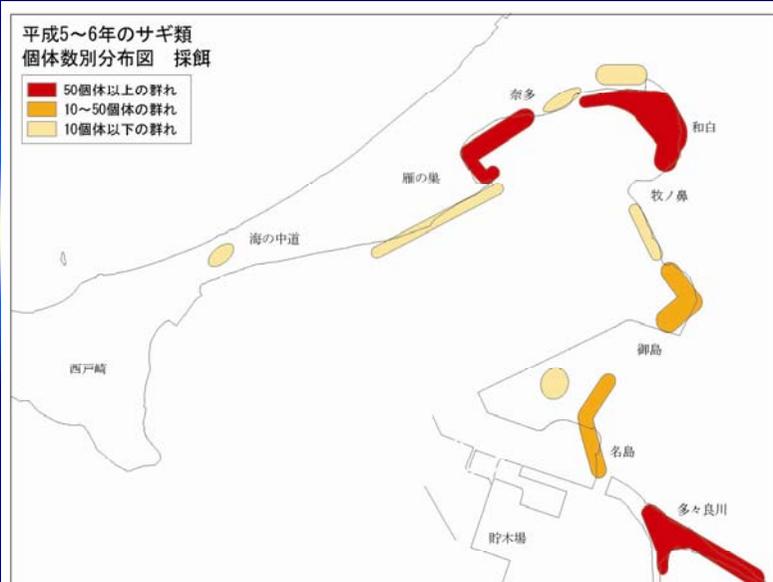
博多湾の鳥類飛来状況(サギ類)



■ アイランドシティ地区
 ■ 埋立周辺地区
 ■ その他の地区

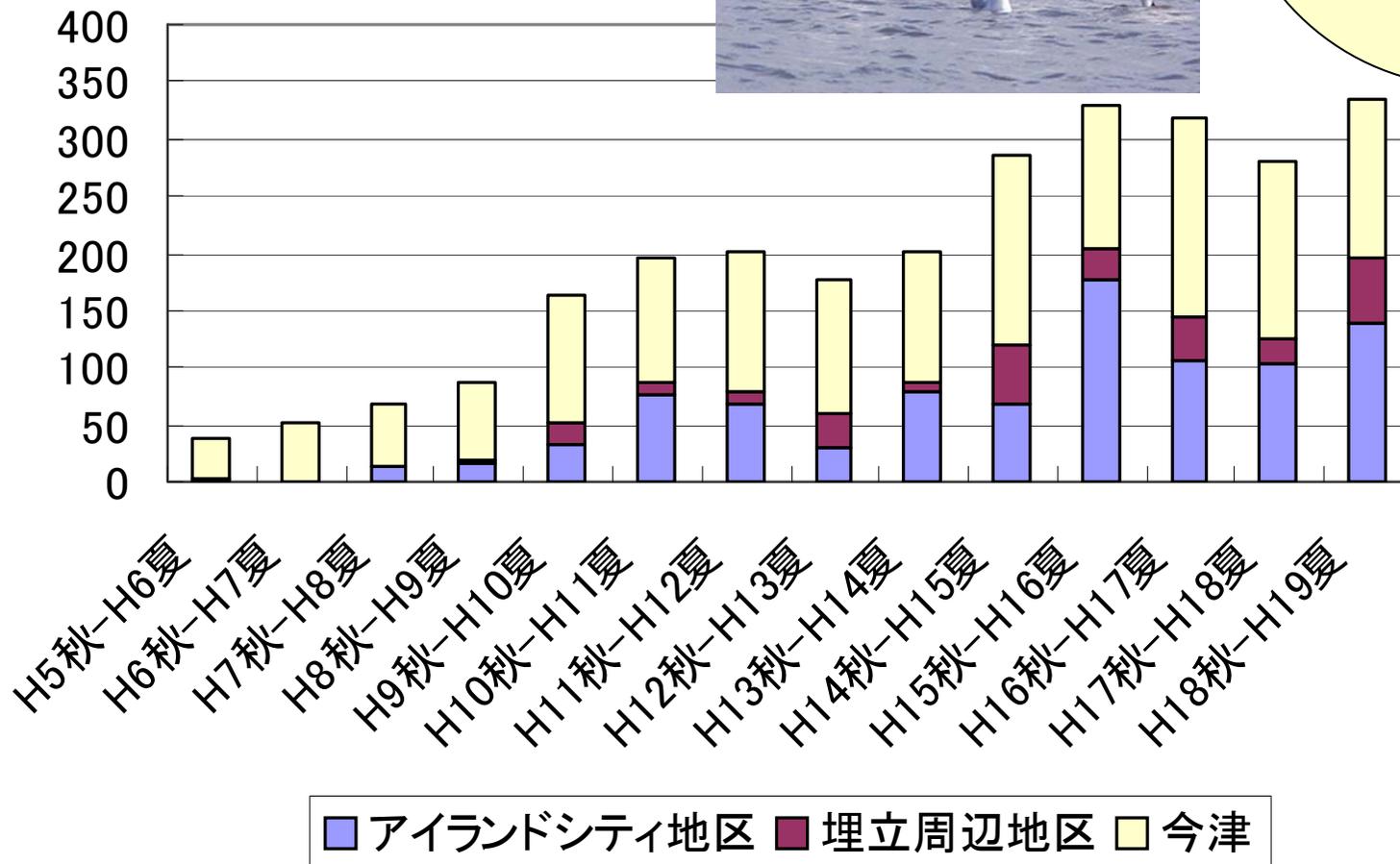
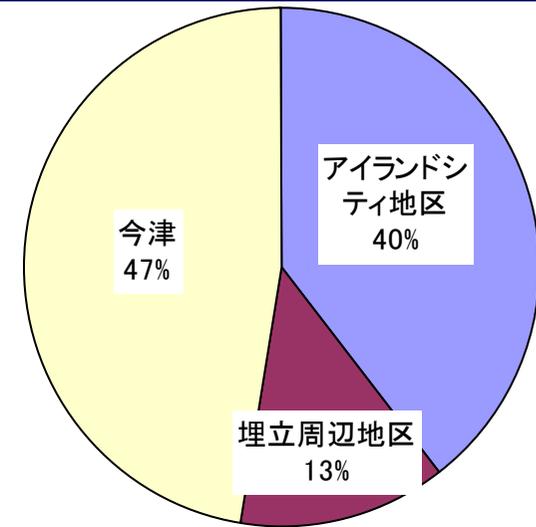
サギ類全体で見るとアイランドシティ内の利用割合は低い

サギ類の分布状況



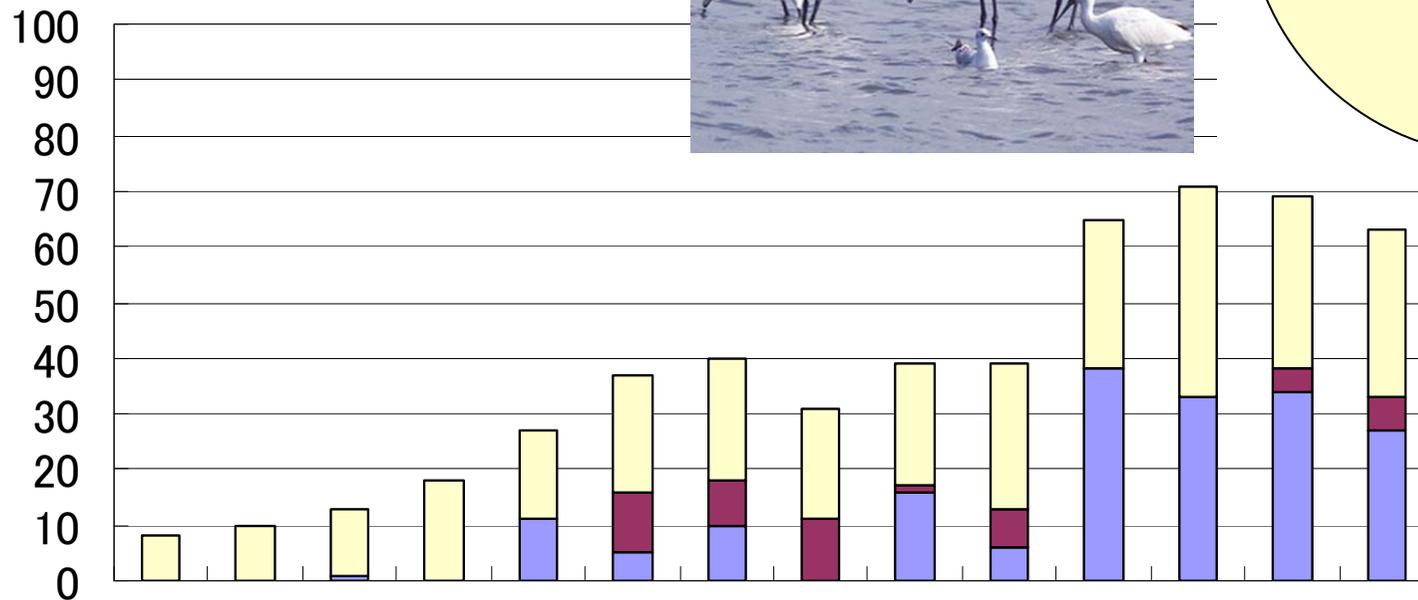
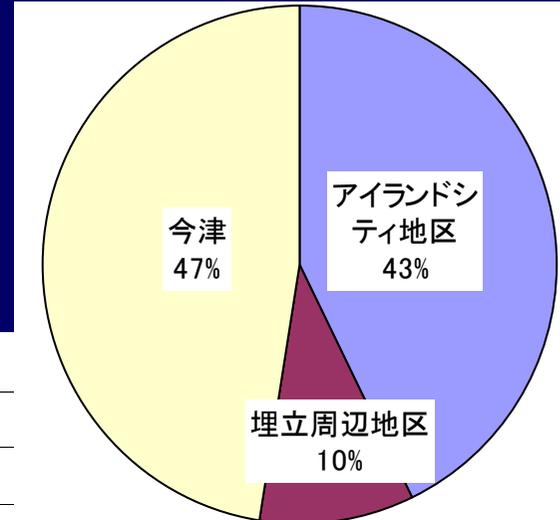
採餌場、休息場とも河川まで広く分布しており、疑似湿地消失による影響は小さいと考えられる

博多湾の鳥類飛来状況 (クロツラヘラサギ)



クロツラヘラサギのアイランドシティ内の利用割合は高い

博多湾の鳥類越冬状況 (クロツラヘラサギ)



平成5年度冬 平成6年度冬 平成7年度冬 平成8年度冬 平成9年度冬 平成10年度冬 平成11年度冬 平成12年度冬 平成13年度冬 平成14年度冬 平成15年度冬 平成16年度冬 平成17年度冬 平成18年度冬

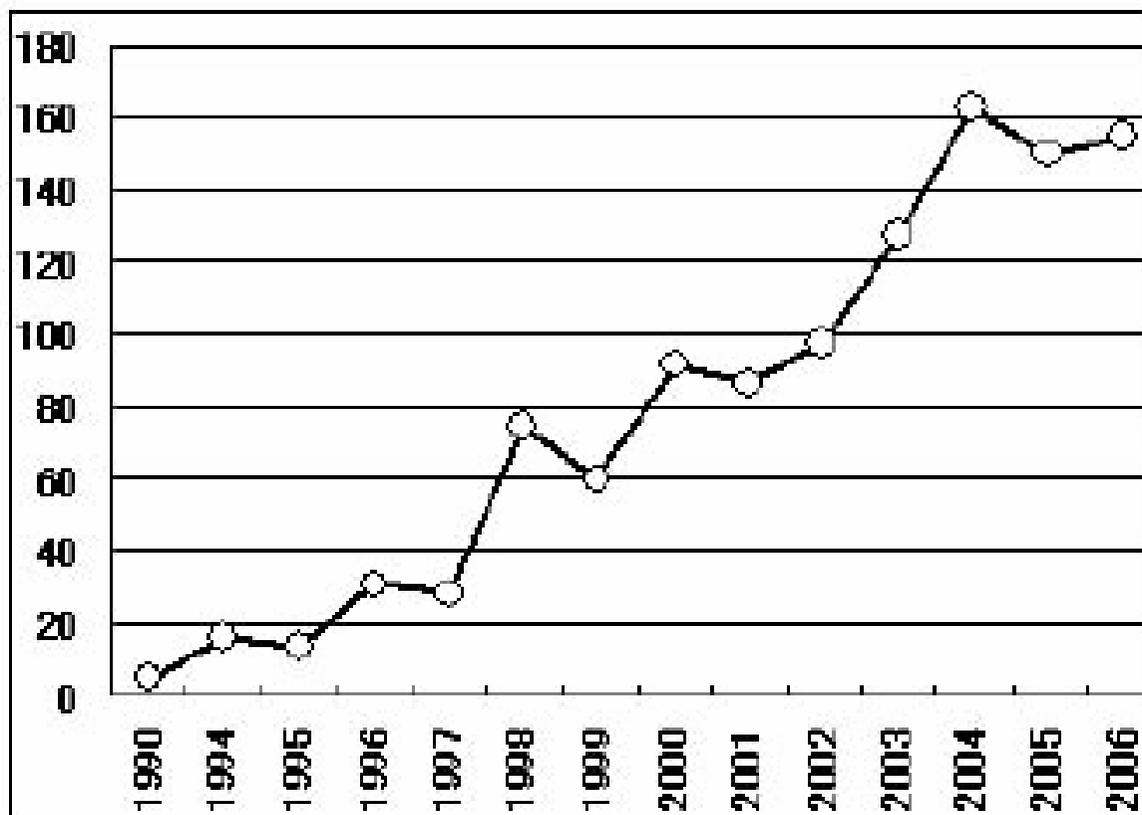
■ アイランドシティ地区 ■ 埋立周辺地区 ■ 今津

クロツラヘラサギのアイランドシティ内の利用割合は高い

クロツラヘラサギの越冬個体数 (日本全体)

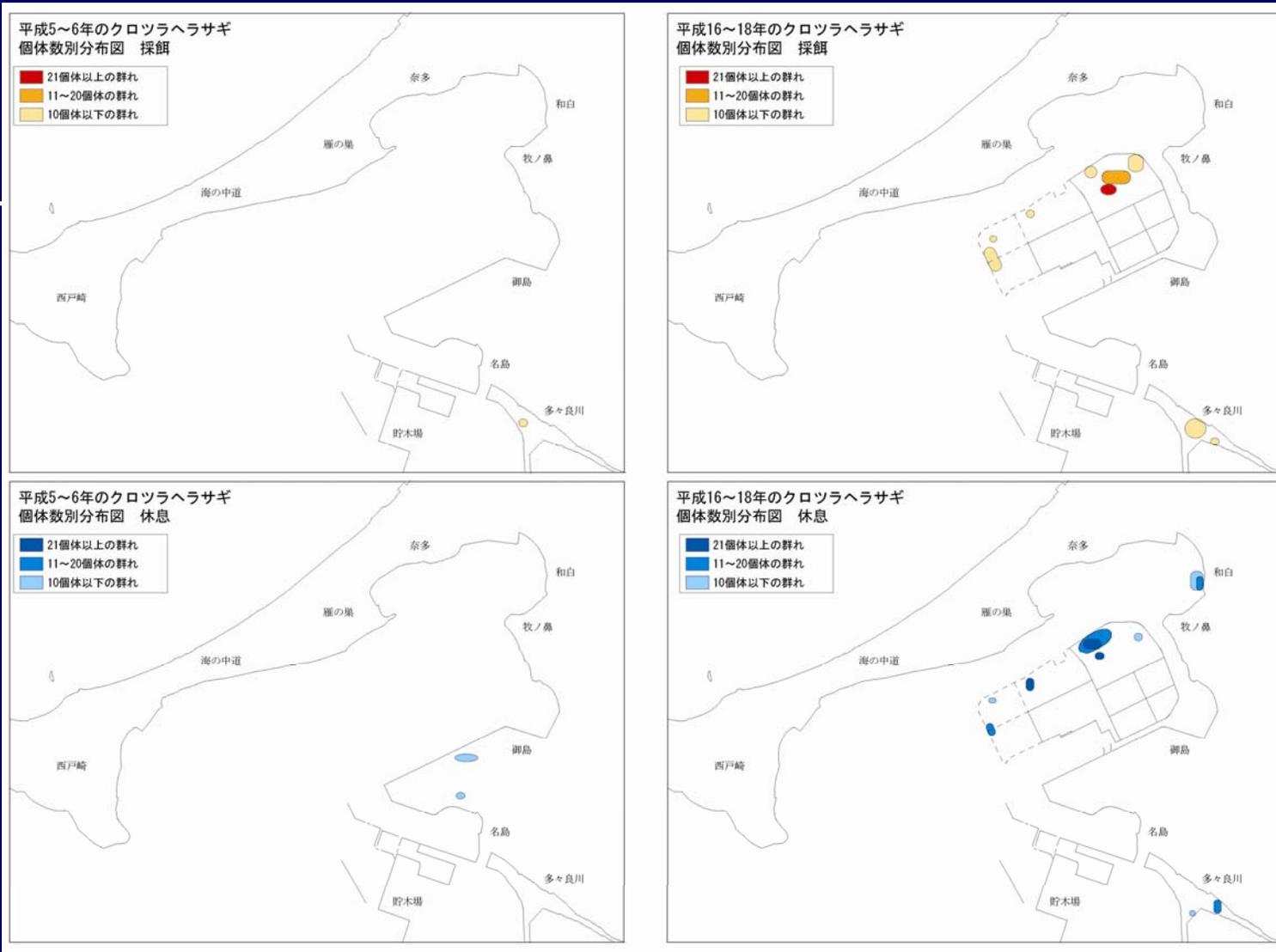


クロツラヘラサギの日本の越冬個体数の変遷



[資料：環境省インターネット自然研究所]

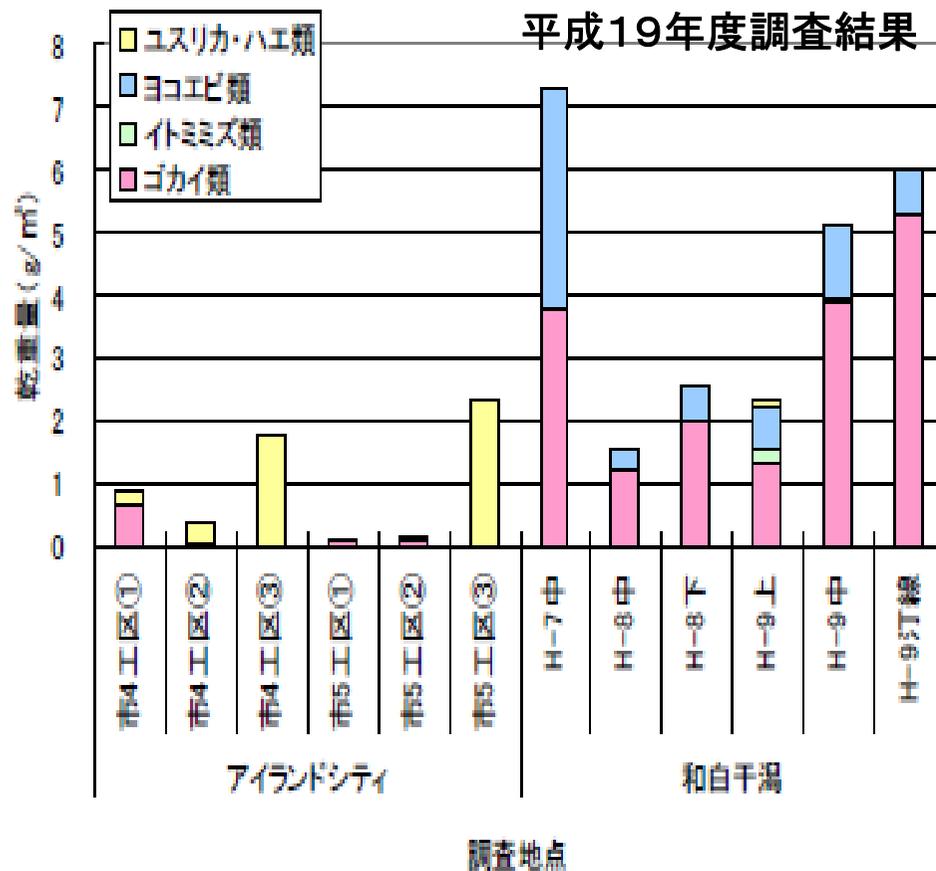
クロツラヘラサギ分布状況



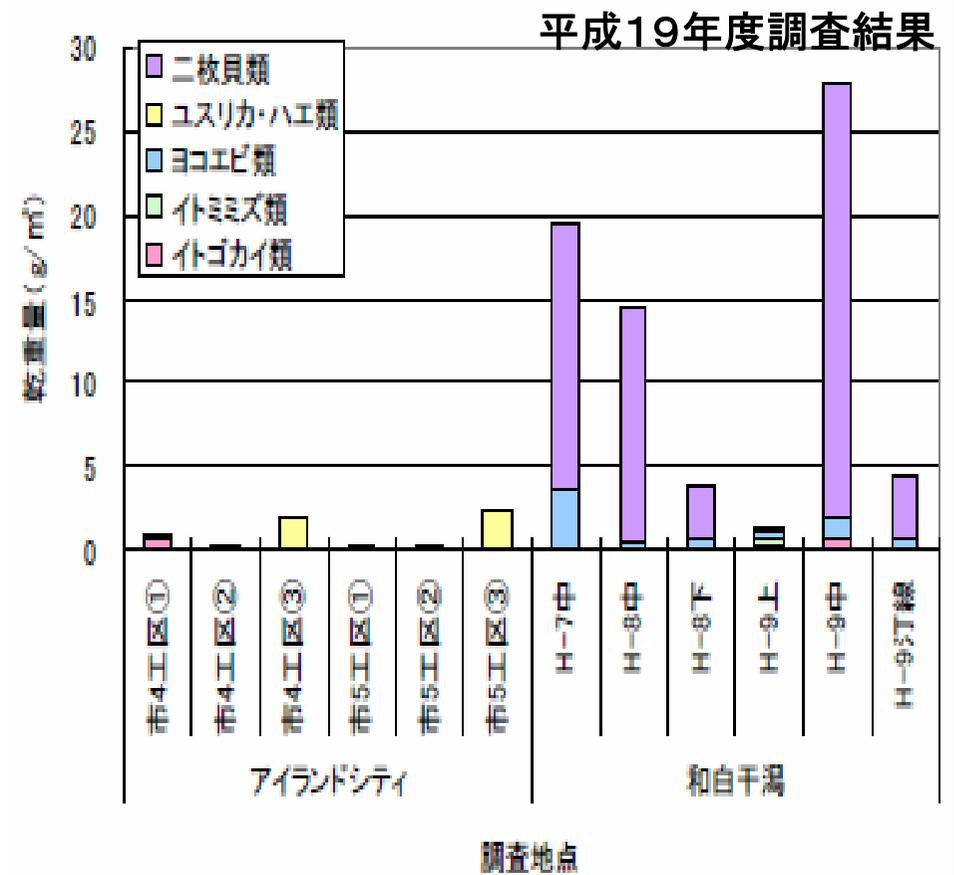
アイランドシティ着工前には殆ど見られなかったが、現在ではエコパークゾーン周辺では、アイランドシティ内の湿地や多々良川河口を利用している

(2) アイランドシティ周辺の状況

和白干潟の餌生物量 (底生生物)

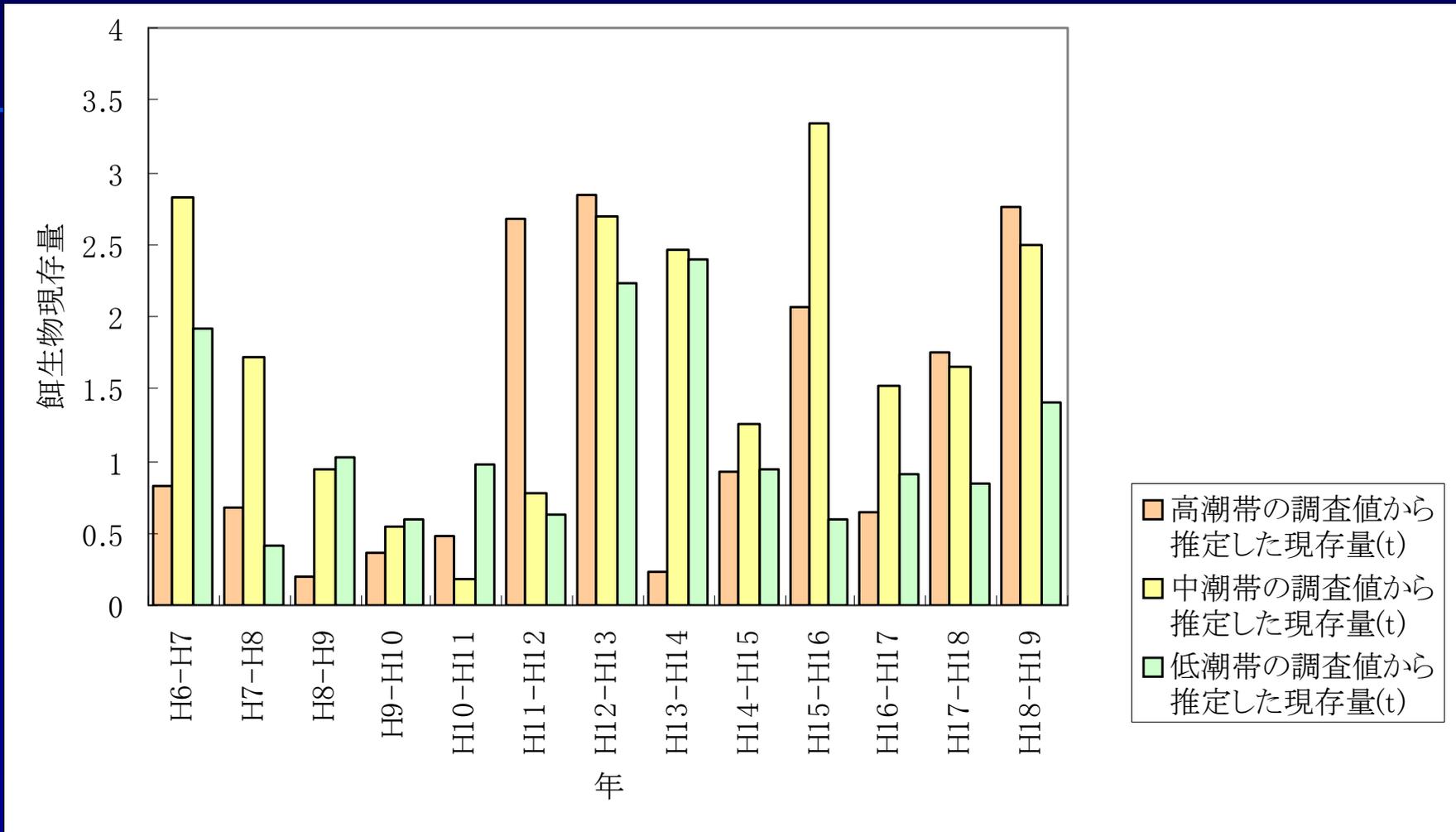


ハマシギなど小型シギ類の餌生物量



マガモ、オナガガモなど雑食性カモ類の餌生物量

和白干潟のシギ・チドリ類の餌生物量 (底生生物)



和白干潟の餌生物量は着工前と比べ大きく変わっておらず、
現在も餌場として十分な機能を有している

シギ・チドリ類の 採餌場と休息場の変遷

①昭和60年代頃

採餌場：和白干潟、御島、多々良川河口部

休息場：箱崎水面貯木場、塩浜農地

②平成5年頃

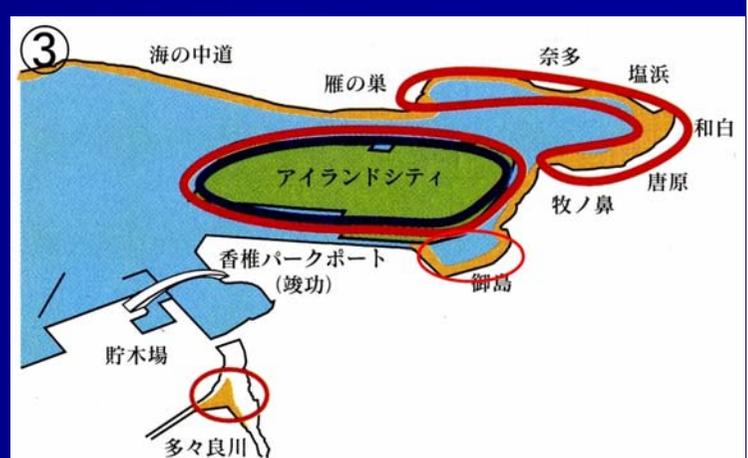
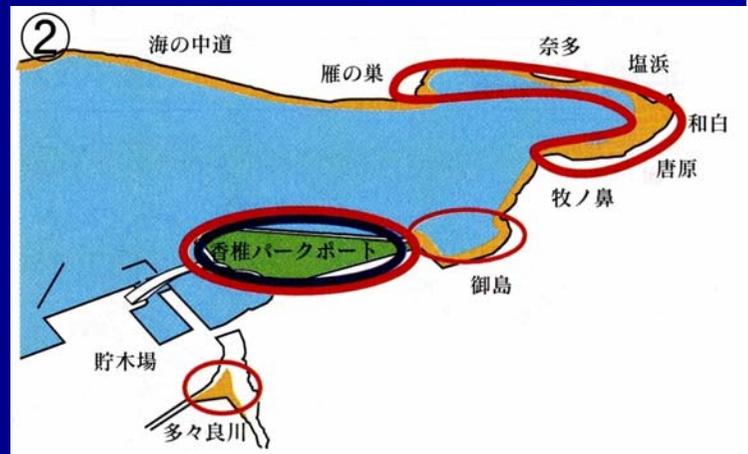
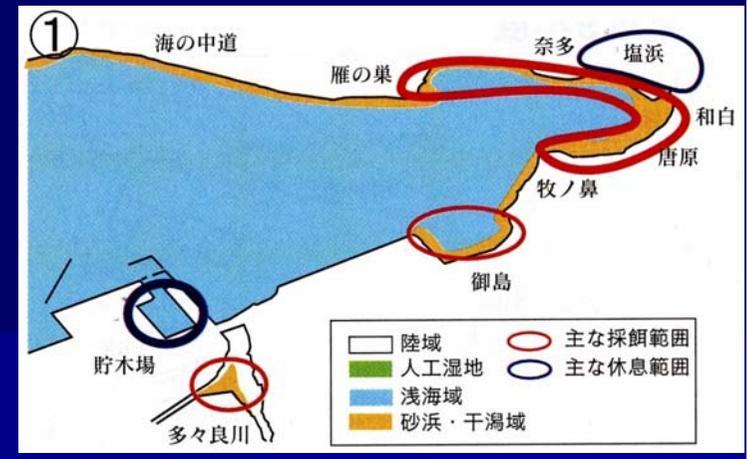
採餌場：和白干潟、御島、多々良川河口部
香椎パークポート

休息場：香椎パークポート

③現在

採餌場：和白干潟、御島、多々良川河口部
アイランドシティ

休息場：アイランドシティ



アイランドシティ周辺の状況(まとめ)

- 和白干潟の餌生物量は工事着工前と比較して特段の変化はない
- 工事着工前にシギ・チドリ類などが休息場として利用していた水面貯木場や塩浜の農地は、埋立や嵩上げにより消失した

アイランドシティ内を多くの鳥類が利用している要因

- 潮の干満の影響を受けずに採餌や休息ができる
- 人の利用を含めて外敵が少ない
- 一定程度の餌が存在する(餌の量自体は和白干潟の方が多)

(3) 保全対象とする鳥類の選定

保全対象とする鳥類の選定

- アイランドシティへの依存度が高い**シギ・チドリ類**及び**クロツラヘラサギ**について保全対策を検討する必要がある。
- カモメ・アジサシ類全体で見るとアイランドシティへの依存度は低く、疑似湿地とは直接関連はないが、アイランドシティの造成裸地で多数営巣・繁殖している**コアジサシ**についても保全対策の検討対象とする。

(4) 保全策の考え方

シギ・チドリ類

- 埋立地内の湿地消失に伴い休息場が大幅に減少するので、新たに休息場を整備する必要がある。



クロツラヘラサギ

- クロツラヘラサギが好む泥の干潟は和臼には存在せず、人工的に作ったとしても維持するのは困難である。
- 従って、本来の生息場である多々良川河口の干潟域、中州及び今津干潟を保全していくことが、最適な保全手段である。



コアジサシ

- 海の中道など過去に繁殖が確認された場所が保全されていることから、既存の繁殖地を保全していく。



(5) 保全策(案)

対象エリア(シギ・チドリ類の休息場)

- 和白干潟ゾーン及び香住ヶ丘ゾーンの海域を対象エリアとする。



保全策(案) ～人工磯・転石帯等～

- 名島地区で平成19年度に実施し、シギ・チドリ類の利用を確認している。
- 平成20年度には、和白地区(牧の鼻)で実験的に実施した。
- 今後、実験結果を見ながら展開を検討する
- 実施にあたっては、周辺環境との連続性があり、岩が沈下しない場所を選定する。



名島地区の人工磯

保全策(案) ～フロート等～

- 多々良川河口部でシギ・チドリ類の利用を確認している。
- 香椎地区でも平成19年度に実施し、野鳥の利用を確認した。
- 今後、設置実験を行い、その結果を見ながら展開を検討する。



多々良川河口のフロート